

資料 1

平成27年9月14日  
秦野市水道局

平成26年度  
秦野市水道事業会計決算（案）について



業 務

(1) 業務量

事 項	平成26年度	平成25年度	比 較		
			増 減	比 率	
行政区域内人口 (A)	168,204 人	168,889 人	△ 685 人	99.59 %	
行政区域内人口 (B)	168,542 人 (うち、松田町 338人)	169,226 人 (うち、松田町 337人)	△ 684 人	99.60 %	
年度末給水人口	168,274 人	168,932 人	△ 658 人	99.61 %	
普 及 率	99.84 %	99.83 %	0.01 ポイ ント		
給 水 戸 数	75,523 戸	75,256 戸	267 戸	100.35 %	
給 水 量	年 間	20,325,719 m <sup>3</sup>	20,903,188 m <sup>3</sup>	△ 577,469 m <sup>3</sup>	97.24 %
	1 か月平均	1,693,810 m <sup>3</sup>	1,741,932 m <sup>3</sup>	△ 48,122 m <sup>3</sup>	
	1 日 平 均	55,687 m <sup>3</sup>	57,269 m <sup>3</sup>	△ 1,582 m <sup>3</sup>	
1 日最大給水量	平成26年8月6日(水) 61,419 m <sup>3</sup>	平成25年7月11日(木) 64,142 m <sup>3</sup>	△ 2,723 m <sup>3</sup>	95.75 %	
有 収 水 量	年 間	19,014,723 m <sup>3</sup>	19,566,946 m <sup>3</sup>	△ 552,223 m <sup>3</sup>	97.18 %
	1 か月平均	1,584,560 m <sup>3</sup>	1,630,579 m <sup>3</sup>	△ 46,019 m <sup>3</sup>	
	1 日 平 均	52,095 m <sup>3</sup>	53,608 m <sup>3</sup>	△ 1,513 m <sup>3</sup>	
年 間 有 収 率	93.55 %	93.61 %	△ 0.06 ポイ ント		
県 水 受 水 量	4,685,330 m <sup>3</sup>	4,914,880 m <sup>3</sup>	△ 229,550 m <sup>3</sup>	95.33 %	

※行政区域内人口(A)は、秦野市分のみ

行政区域内人口(B)は、行政区域内人口(A)に松田町(湯の沢地区)分を加えたもの  
普及率は、「給水人口÷行政区域内人口(B)」で算出

収益的収入及び支出

収 入

区 分	予 算 額			合
	当初予算額	補正予算額	地方公営企業法第24条第3項の規定による支出額に係る財源充当額	
第1款 水道事業収益	2,846,634,000	0	0	
第1項 営業収益	2,259,757,000	0	0	
第2項 営業外収益	500,746,000	0	0	
第3項 特別利益	86,131,000	0	0	

支 出

区 分	予 算					小 計
	当初予算額	補正予算額	予備費支出額	流 用 増減額	地方公営企業法第24条第3項の規定による支出額	
第1款 水道事業費用	2,762,015,000	△ 7,055,000	0	0	0	2,754,960,000
第1項 営業費用	2,505,073,000	△ 7,055,000	0	0	0	2,498,018,000
第2項 営業外費用	208,068,000	0	7,247,469	0	0	215,315,469
第3項 特別損失	28,874,000	0	297,980	0	0	29,171,980
第4項 予備費	20,000,000	0	△ 7,545,449	0	0	12,454,551

単位：円

計	決算額	予算額に比べ 決算額 の増減	備考
2,259,757,000	2,169,342,235	△ 90,414,765	(決算額のうち仮受消費税及び地方消費税 149,680,975円)
500,746,000	493,500,077	△ 7,245,923	(決算額のうち仮受消費税及び地方消費税 17,536,116円)
86,131,000	487,098	△ 85,643,902	(決算額のうち仮受消費税及び地方消費税 21,156円)

単位：円

額			決算額	地方公営企業法第26条第2項の規定による繰越額	不用額	備考
地方公営企業法第26条第2項の規定による繰越額	継続費 通次 繰越額	合計				
0	0	2,754,960,000	2,641,671,712	0	113,288,288	
0	0	2,498,018,000	2,395,844,836	0	102,173,164	決算額のうち地方公営企業法施行令第18条第5項ただし書の適用によるもの 3,640円 (決算額のうち仮払消費税及び地方消費税 86,905,199円)
0	0	215,315,469	215,315,469	0	0	
0	0	29,171,980	30,511,407	0	△ 1,339,427	決算額のうち地方公営企業法施行令第18条第5項ただし書の適用によるもの 1,341,427円 (決算額のうち仮払消費税及び地方消費税 605,002円)
0	0	12,454,551	0	0	12,454,551	

資本的収入及び支出

収 入

区 分	予 算 額				
	当初予算額	補正予算額	小 計	地方公営企業法 第26条の規定 による繰越額に 係る財源充当額	継続費通次 繰越額に係る 財源充当額
第1款 資本的収入	407,406,000	0	407,406,000	0	0
第1項 企業債	400,000,000	0	400,000,000	0	0
第2項 工事負担金	6,286,000	0	6,286,000	0	0
第3項 固定資産 売却代金	1,120,000	0	1,120,000	0	0

支 出

区 分	予 算 額						
	当初予算額	補正予算額	予備費 支出額	流 用 増減額	小 計	地 方 公 営 企 業 法 第 2 6 条 規 定 に 由 る 繰 越 額	継 続 費 通 次 繰 越 額
第1款 資本的支出	1,480,391,000	1,787,000	0	0	1,482,178,000	0	0
第1項 建設改良費	1,028,899,000	1,787,000	0	0	1,030,686,000	0	0
第2項 企業債償還金	440,100,000	0	0	0	440,100,000	0	0
第3項 基金積立金	10,391,000	0	0	0	10,391,000	0	0
第4項 その他資本的 支出	1,000	0	0	0	1,000	0	0
第5項 予備費	1,000,000	0	0	0	1,000,000	0	0

資本的収入額が資本的支出額に不足する額829,701,324円は、過年度分損益勘定留保資金740,270,127円  
的収支調整額 43,139,197円で補填した。

単位：円

合 計	決 算 額	予算額に比べ 決 算 額 の 増 減	備 考
407,406,000	298,288,396	△ 109,117,604	
400,000,000	292,000,000	△ 108,000,000	
6,286,000	6,091,296	△ 194,704	(決算額のうち、仮受消費税及び地方消費税 43,360円)
1,120,000	197,100	△ 922,900	(決算額のうち、仮受消費税及び地方消費税 14,600円)

単位：円

合 計	決 算 額	翌 年 度 繰 越 額			不 用 額	備 考
		地 方 公 営 企 業 法 第 2 6 条 の 規 定 に よ る 繰 越 額	継 続 費 次 繰 越 額	合 計		
1,482,178,000	1,127,989,720	0	0	0	354,188,280	
1,030,686,000	677,499,620	0	0	0	353,186,380	(決算額のうち仮払消費税 及び地方消費税 43,595,138円)
440,100,000	440,099,100	0	0	0	900	
10,391,000	10,391,000	0	0	0	0	
1,000	0	0	0	0	1,000	
1,000,000	0	0	0	0	1,000,000	

円、減債積立金20,000,000円、建設改良積立金26,292,000円及び当年度分消費税及び地方消費税資本

事業収入に関する事項

ア 事業収入

区 分	平成26年度		平成25年度		増 減 額
	金 額	構成比	金 額	構成比	
	円	%	円	%	円
1 営業収益	2,019,661,260	80.91	2,088,425,801	88.91	△68,764,541
1 給水収益	1,989,398,835	79.70	2,062,448,675	87.80	△73,049,840
2 受託給水工事収益	19,631,297	0.79	17,390,528	0.74	2,240,769
3 その他の営業収益	10,631,128	0.42	8,586,598	0.37	2,044,530
2 営業外収益	475,964,078	19.07	260,536,325	11.09	215,427,753
1 受取利息	1,275,475	0.05	1,095,423	0.05	180,052
2 補助金	3,086,000	0.13	370,000	0.01	2,716,000
3 交付金	432,000	0.02	496,000	0.02	△ 64,000
4 水道利用加入金	124,100,000	4.97	134,875,000	5.74	△10,775,000
5 引当金戻入益	0	0.00	—	—	0
6 長期前受金戻入	212,503,117	8.51	—	—	212,503,117
7 雑収益	134,567,486	5.39	123,699,902	5.27	10,867,584
3 特別利益	465,942	0.02	78,804	0.00	387,138
1 固定資産売却益	136,140	0.01	0	0.00	136,140
2 過年度損益修正益	329,802	0.01	78,804	0.00	250,998
3 その他特別利益	0	0.00	—	—	0
合 計	2,496,091,280	100.00	2,349,040,930	100.00	147,050,350

イ 用途別給水収益・供給単価

用途別	給水収益	有収水量	給水戸数	1戸当たり 1か月平均 水道料金	1戸当たり 1か月平均 有収水量	1m <sup>3</sup> 当たり 平均単価 (供給単価)
	円	m <sup>3</sup>	戸	円	m <sup>3</sup>	円
家事用	1,192,422,810	15,018,797	71,059	1,398	17.61	79.40
業務用	787,640,245	3,922,626	4,270	15,372	76.55	200.79
農業用	9,180,780	72,897	190	4,027	31.97	125.94
臨時用	155,000	403	4	3,229	8.40	384.62
合 計	1,989,398,835	19,014,723	75,523	2,195	20.98	104.62



事業費に関する事項  
ア 事業費用

区 分	平成26年度		平成25年度		増 減 額
	金 額	構成比	金 額	構成比	
	円	%	円	%	円
1 営業費用	2,308,939,637	91.70	2,105,446,222	91.39	203,493,415
1 原水浄水費	894,545,046	35.53	881,530,137	38.26	13,014,909
2 配水給水費	181,810,691	7.22	190,603,138	8.28	△ 8,792,447
3 受託工事費	13,725,247	0.54	13,330,855	0.58	394,392
4 業務費	133,076,433	5.29	149,490,505	6.49	△ 16,414,072
5 総係費	159,193,947	6.32	132,536,645	5.75	26,657,302
6 減価償却費	885,730,828	35.18	699,486,296	30.36	186,244,532
7 資産減耗費	40,852,805	1.62	38,468,646	1.67	2,384,159
8 その他の営業費用	4,640	0.00	0	0.00	4,640
2 営業外費用	179,039,710	7.11	186,205,791	8.08	△ 7,166,081
1 支払利息及び 企業債取扱諸費	177,227,805	7.04	183,803,398	7.98	△ 6,575,593
2 雑支出	1,811,905	0.07	2,402,393	0.10	△ 590,488
3 特別損失	29,906,405	1.19	12,214,780	0.53	17,691,625
1 固定資産売却損	0	0.00	0	0.00	0
2 過年度損益修正損	3,321,405	0.13	12,214,780	0.53	△ 8,893,375
3 減損損失	0	0.00	—	—	0
4 その他特別損失	26,585,000	1.06	—	—	26,585,000
合 計	2,517,885,752	100.00	2,303,866,793	100.00	214,018,959

イ 費用構成・給水原価

区 分	金 額	構成比	受託工事費、材料及 び不用品売却原価、 特別損失を除く金額	構成比	給水原価
	円	%	円	%	円
職員給与費 ※1	256,185,774	10.17	225,627,516	9.97	11.87
賃金	256,716	0.01	256,716	0.01	0.01
報酬	1,801,100	0.07	1,801,100	0.08	0.10
旅費	201,480	0.01	196,157	0.01	0.01
備消耗品費	2,751,852	0.11	2,702,981	0.12	0.14
燃料費	2,098,830	0.08	1,953,849	0.09	0.10
光熱水費	4,936,829	0.20	4,936,829	0.22	0.26
印刷製本費	474,347	0.02	455,847	0.02	0.03
通信運搬費	9,102,870	0.36	9,031,036	0.40	0.48
委託料	211,870,494	8.41	211,870,494	9.37	11.14
手数料	8,356,287	0.33	8,356,287	0.37	0.44
賃借料	3,477,500	0.14	3,231,980	0.14	0.17
修繕費	78,203,442	3.11	78,203,442	3.46	4.11
路面復旧費	1,822,000	0.07	1,822,000	0.08	0.10
動力費	220,963,534	8.78	220,963,534	9.77	11.62
薬品費	2,419,800	0.10	2,419,800	0.11	0.13
材料費	3,616,338	0.14	3,616,338	0.16	0.19
補償費	425,807	0.02	425,807	0.02	0.02
負担金	28,580,347	1.13	28,580,347	1.26	1.50
受水費	550,306,539	21.86	550,306,539	24.33	28.94
有形固定資産減価償却費	885,730,828	35.18	※2 678,677,641	30.01	35.69
固定資産除却費	40,594,305	1.61	※2 35,144,375	1.55	1.85
企業債利息	177,227,805	7.04	177,227,805	7.83	9.32
その他	26,480,928	1.05	13,937,923	0.62	0.73
合 計	2,517,885,752	100.00	2,261,746,343	100.00	118.95

※1 職員給与費は、一般職員の給料、手当等、法定福利費、退職給付金、引当金繰入額の合計額。(臨時職員の法定福利費(2,631円)は除く。)

※2 給水原価算出に当たり、有形固定資産減価償却費及び固定資産除却費から長期前受金戻入見合いの金額(207,053,187円及び5,449,930円)を控除。

平成26年度秦野市水道事業損益計算書  
(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

(単位：円)

1	営業収益			
(1)	給水収益	1,989,398,835		
(2)	受託給水工事収益	19,631,297		
(3)	その他の営業収益	<u>10,631,128</u>	2,019,661,260	
2	営業費用			
(1)	原水浄水費	894,545,046		
(2)	配水給水費	181,810,691		
(3)	受託工事費	13,725,247		
(4)	業務費	133,076,433		
(5)	総係費	159,193,947		
(6)	減価償却費	885,730,828		
(7)	資産減耗費	40,852,805		
(8)	その他の営業費用	<u>4,640</u>	<u>2,308,939,637</u>	
	営業損失			289,278,377
3	営業外収益			
(1)	受取利息	1,275,475		
(2)	補助金	3,086,000		
(3)	交付金	432,000		
(4)	水道利用加入金	124,100,000		
(5)	引当金戻入益	0		
(6)	長期前受金戻入	212,503,117		
(7)	雑収益	<u>134,567,486</u>	475,964,078	
4	営業外費用			
(1)	支払利息及び企業債取扱諸費	177,227,805		
(2)	雑支出	<u>1,811,905</u>	<u>179,039,710</u>	296,924,368
	経常利益			7,645,991
5	特別利益			
(1)	固定資産売却益	136,140		
(2)	過年度損益修正益	329,802		
(3)	その他特別利益	<u>0</u>	465,942	
6	特別損失			
(1)	固定資産売却損	0		
(2)	過年度損益修正損	3,321,405		
(3)	減損損失	0		
(4)	その他特別損失	<u>26,585,000</u>	<u>29,906,405</u>	<u>△ 29,440,463</u>
	当年度純損失			21,794,472
	前年度繰越利益剰余金			100,000,000
	その他未処分利益剰余金変動額			<u>594,279,131</u>
	当年度未処分利益剰余金			<u><u>672,484,659</u></u>

平成26年度秦野市水道事業貸借対照表  
(平成27年3月31日)

(単位：円)

資産の部

1	固定資産			
(1)	有形固定資産			
	ア 土地		1,604,043,383	
	イ 立木		4,523,292	
	ウ 建物	1,440,750,040		
	減価償却累計額	<u>△ 528,086,663</u>	912,663,377	
	エ 構築物	30,904,562,219		
	減価償却累計額	<u>△ 14,908,681,893</u>	15,995,880,326	
	オ 機械及び装置	5,398,513,868		
	減価償却累計額	<u>△ 3,676,663,731</u>	1,721,850,137	
	カ 車両運搬具	39,503,735		
	減価償却累計額	<u>△ 36,310,925</u>	3,192,810	
	キ 工具器具及び備品	51,305,703		
	減価償却累計額	<u>△ 33,151,073</u>	18,154,630	
	ク 建設仮勘定		<u>183,924,630</u>	
	有形固定資産合計			20,444,232,585
(2)	無形固定資産			
	ア 施設利用権		<u>624,633</u>	
	無形固定資産合計			624,633
(3)	投資			
	ア 基金		396,489,150	
	イ 出資金		<u>1,744,000</u>	
	投資合計			<u>398,233,150</u>
	固定資産合計			20,843,090,368
2	流動資産			
(1)	現金預金		1,516,161,591	
(2)	未収金		236,777,243	
	貸倒引当金	<u>△ 9,000,000</u>	227,777,243	
(3)	貯蔵品		74,476,001	
(4)	その他流動資産		<u>16,000,000</u>	
	流動資産合計			<u>1,834,414,835</u>
	資産合計			<u><u>22,677,505,203</u></u>

負債の部

3 固定負債

(1) 建設改良費等の財源に 充てるための企業債		7,238,044,087	
(2) 引当金			
ア 退職給付引当金	16,876,000		
引当金合計		<u>16,876,000</u>	
固定負債合計			7,254,920,087

4 流動負債

(1) 建設改良費等の財源に 充てるための企業債		435,251,558	
(2) 未払金		248,638,951	
(3) 前受金		1,350,000	
(4) 預り金		204,128,693	
(5) 引当金			
ア 賞与引当金	19,655,000		
イ 法定福利費引当金	3,566,000		
引当金合計		<u>23,221,000</u>	
(6) その他流動負債		16,731,521	
流動負債合計			<u>929,321,723</u>

5 繰延収益

(1) 長期前受金			
ア 受贈財産評価額	3,029,811,007		
イ 工事負担金	4,579,174,095		
ウ 国庫補助金	88,561,878		
エ 県補助金	545,092,161		
オ その他長期前受金	1,048,507,849		
長期前受金合計		<u>9,291,146,990</u>	
(2) 収益化累計額			
ア 受贈財産評価額	△ 1,147,396,320		
イ 工事負担金	△ 2,822,357,117		
ウ 国庫補助金	△ 40,463,061		
エ 県補助金	△ 447,040,488		
オ その他長期前受金	△ 517,127,185		
収益化累計額合計		<u>△ 4,974,384,171</u>	
繰延収益合計			<u>4,316,762,819</u>
負債合計			<u><u>12,501,004,629</u></u>

資本の部

6	資本金			
(1)	自己資本金		9,016,421,999	
	資本金合計			9,016,421,999
7	剰余金			
(1)	資本剰余金			
	ア 再評価積立金	9,465,464		
	イ 受贈財産評価額	117,279,359		
	ウ 工事負担金	68,944,963		
	エ 国庫補助金	616,000		
	オ 県補助金	76,088,168		
	カ その他資本剰余金	121,046,552		
	資本剰余金合計		393,440,506	
(2)	利益剰余金			
	ア 減債積立金	23,977,985		
	イ 建設改良積立金	70,175,425		
	ウ 当年度未処分利益剰余金	672,484,659		
	利益剰余金合計		766,638,069	
	剰余金合計			1,160,078,575
	資本合計			10,176,500,574
	負債資本合計			22,677,505,203

企業債及び一時借入金の概要

ア 企業債

単位：円

借入先	前年度末残高	年度内増加額	年度内減少額	年度末残高
財務省財政融資資金	4,085,577,505	0	232,409,334	3,853,168,171
地方公共団体金融機構	3,591,390,650	292,000,000	158,986,096	3,724,404,554
神奈川県市町村振興資金	144,426,590	0	48,703,670	95,722,920
合計	7,821,394,745	292,000,000	440,099,100	7,673,295,645

※ 地方公共団体金融機構は、旧公営企業金融公庫を含む。

イ 一時借入金

なし

その他会計経理に関する重要事項

ア 基金

(ア) 水道事業基金

単位：円

区分	前年度末残高	年度内増加額	年度内減少額	年度末残高
現金	374,227,370	402,376	0	374,629,746

(イ) 職員退職給与準備基金

単位：円

区分	前年度末残高	年度内増加額	年度内減少額	年度末残高
現金	11,870,780	9,988,624	0	21,859,404

イ 出資金

(ア) 地方公共団体金融機構出資金

単位：円

区分	前年度末残高	年度内増加額	年度内減少額	年度末残高
出資金	1,744,000	0	0	1,744,000

その他

(1) 決算日後に生じた企業の状況に関する重要な事項

なし

## 秦野市監査委員「平成26年度秦野市水道事業会計決算審査意見書」

### 審査の所見（抜粋）

#### 1 経営の概況

平成26年度は、市制施行60周年、水道創設125年という節目の年でしたが、4月の消費税率引き上げによる節約志向のより一層の高まりや夏場の天候不順、また、企業の減産や設備投資の先送りに加え、水道事業経営に不可欠な工事用資機材や電気料の高騰、地方公営企業会計制度の見直しによる事業費用の増加など、水道事業を取り巻く経営環境は、大変厳しいものでした。

このような状況の中、水道事業経営の主要な収入源である給水収益は、19億8939万8835円で、対前年度比3.5パーセント、7304万9840円（消費税抜額）の減となり、平成23年4月に水道料金を改定して以降、3年連続の減収となっており、また、収益的収支は、料金改定後、初の赤字で2179万4472円（消費税抜額）の純損失となっています。

また、経営指標については、地方公営企業会計制度の見直しにより、参考比較となりますが、旧会計基準によると総収支比率は、対前年度比1.30ポイント減の100.66パーセント（新会計基準適用後99.13パーセント）、経常収支比率は、対前年度比1.30ポイント減の101.20パーセント（新会計基準適用後100.31パーセント）と、いずれも前年度に比べ下降しており、特に、営業損益では赤字が拡大したことから、営業収支比率は、対前年度比2.06ポイント減の96.93パーセント（新会計基準適用後87.14パーセント）となり、総じて、平成25年度よりも収益率の低下が進行する結果となりました。

そして、水道事業経営の安定の基本となる水需要は、その減少傾向に歯止めが掛かっておらず、家事用、業務用、農業用、臨時用すべての有収水量が減少した結果、水道水1立方メートル当たりの販売損失は、平成25年度の11円4銭から3円29銭増えて、平成26年度は14円33銭に拡大し、いわゆる逆ザヤ現象（給水原価が供給単価を上回っていること）は、平成8年度から平成26年度まで19年連続しており、解消の見込みは立っていないことから、安定した水道事業経営は難しい状況になりつつあると考えられます。

#### 2 個別課題への取組事項

##### (1) 滞納整理の適切な対応と未収金対策の徹底

水道料金未収金の現年度分は、1億6546万4407円で、対前年度比1337万



6877円（7.5パーセント）の減、徴収率は、対前年度比0.53ポイント上昇し92.26パーセントとなっています。また、滞納繰越分は、4890万8720円で、対前年度比2905万4398円（37.3パーセント）の減、徴収率は、対前年度比7.12ポイント上昇し77.07パーセントとなった結果、水道料金未収金の総額は、2億1437万3127円で、対前年度比4243万1275円（16.5パーセント）の減、収入率は、対前年度比1.54ポイント上昇し90.64パーセントとなっています。

また、水道料金の不納欠損額は、994万6340円で、対前年度比150万4905円（13.1パーセント）の減となっています。

以上のとおり、平成26年度も引き続き、水道料金の未収金や不納欠損額は減少し、平成24年4月から開始された水道料金等業務包括委託業務は、経営の合理化だけではなく、未収金対策の面からも成果を上げていると評価されるところです。

今後も、水道事業の経営基盤の安定と採算性を強化するため、受益者負担の公平性を保つ観点からも、給水停止を含めた未収金対策の徹底により、さらなる水道料金の徴収率の向上が図られ、水道料金収入が適正に確保されることを期待します。

なお、水道水は生活に必要不可欠なものであるため、給水停止を実施する際には、引き続き債務者の生活状況などを慎重に見極めたうえで、適切な対応がなされるよう留意してください。

## (2) 自己水供給と県水受水の運用

平成26年度は、年間給水量2032万5719立方メートルのうち468万5330立方メートル（構成比23.1パーセント）を県水で賄っていますが、県水受水量は、対前年度比22万9550立方メートル（4.7パーセント）の減で、平成21年度以降、6年ぶりの減少となりました。また、消費税率引き上げの影響により、県水受水費は年間5億9295万8375円で、対前年度比1196万6310円（2.1パーセント）の増となっているものの、経常的経費である収益的支出は、県水受水費以外でも増えているため、県水受水費の収益的支出に占める割合は、対前年度比1.9ポイント減少し、22.4パーセントとなっています。

県水の受水は、市民生活や企業活動に必要な水道水の安定供給における水量の不足を補うことがその第一の目的であり、大規模地震など災害緊急対策、新水源開発や施設の統廃合等に伴う一時的な活用などの重要

な役割も担っているところですが、水道局の試算によると平成26年度の県水の1立方メートル当たりの給水原価は、自己水の108.43円を45.63円上回る154.06円となっていることから、県水受水費は、経常的に発生する割高な経費であり、本市の水道事業経営を圧迫し続ける要因の一つになっていることも事実です。

そこで、健全な水道事業経営の維持のためには、自己水供給と県水受水のそれぞれのコストを詳細に把握する必要があり、また、自己水供給量と県水受水量の運用による損益分岐点のシミュレーションを行うことで、将来的には、自己水供給と県水受給のバランスを適正化していくことが肝要になると考えます。

なお、県水受水費の負担軽減については、現状が適正な負担かどうかの判断材料とするため、県内広域水道企業団に対しては、県企業庁を通じて、ダム建設に係る企業債の償還状況その他の財務資料、施設整備計画などの詳細な経営情報の提供を促すとともに、経営努力による県水受水費の削減への働きかけを強化されるよう要望します。

### (3) 水道施設の耐震化及び合理化の推進

水道施設を良好かつ効率的に維持管理していくため、平成23年度から平成32年度までの施設整備計画に基づき、平成26年度も引き続き、老朽化した水道施設の更新と地震対策とを併せて、基幹管路を重点とした耐震化工事、緊急遮断弁の設置工事及び配水場遠方監視制御装置の更新工事などが執行されたところですが、当初、予定していた工事について必要性や更新時期の再検討を行い、執行を見送った結果、導水管や送水管などの基幹管路の耐震化率は、平成25年度に比べ、0.9ポイント増の29.5パーセント、更新率は、平成25年度に比べ、3.5ポイント減の0.9パーセントと低いものになっています。

施設整備の実施に当たっては、事業の必要性や使用可能年数などを十分に評価検討した上で、適切な水道施設の整備と耐震化に努められることを期待します。

また、施設利用率は57.37パーセントで、県内平均61.46パーセント及び全国平均60.39パーセントと比較しても、ともに下回っており、施設が効率的に運営されているとは言えない状況にあります。今後の水需要の減少に対応するためにも、施設の休廃止等も含め施設整備計画を見直すこと

で、より効率的で効果的な施設整備を計画的に実現していくことが課題になると思われます。

(4) 企業債残高の抑制による将来負担の軽減

平成26年度末の企業債残高は、76億7329万5645円で、対前年度比1億4809万9100円（1.9パーセント）の減となっています。

また、料金収入に対する企業債償還元金の割合は、対前年度比0.42ポイントの増の22.12パーセントで、県平均15.83パーセント（平成25年度）よりも6.29ポイント高くなっており、料金収入に対する企業債利息の割合は、前年度と同じ8.91パーセントで、県平均6.39パーセント（平成25年度）よりも2.52ポイント高くなっています。

企業債の未償還元金は、新たな借り入れを償還額以下に抑えながら、適切に管理しているため、毎年、減少してはいるものの、借入金である企業債の元利償還については、水道事業経営を将来にわたり圧迫する大きな要因となるため、今後も施設整備計画や財政計画を随時見直していく中で、適切な償還計画の策定に基づき、企業債の発行を極力抑制しつつ、適正な水道料金の水準とのバランスにも配慮しながら、企業債残高を段階的に縮減していくことが求められます。

(5) 「おいしい秦野の水」の販売収支の改善

平成20年度から開始した水のペットボトル（「おいしい秦野の水」）の販売収支は、平成26年度も232万1511円の赤字となっており、水道事業の赤字要因の一つになっています。また、附帯事業の赤字は、本事業である水道事業により補てんされることから、結果的に水道利用者の負担となってしまいます。このため、引き続き販売収支の改善に積極的に取り組まれることを要望します。

### 3 終わりに

政府の経済報告（平成27年7月）によると、景気は緩やかな回復基調が続いており、個人消費や企業の設備投資も持ち直しの兆しがみられるとのことですが、人口減少や様々な分野での省エネ・節水技術の大幅な向上により、給水人口と給水量は継続的に減少しています。

今後は、給水量の大幅な回復が期待できない状況を前提としたうえで、よ

り健全な水道事業経営を安定的に継続していく必要があり、水道料金の計画的な見直しによる財務体質の根本的な改善と合わせ、水道利用者の理解を得るために、維持管理経費の一層の削減、業務の外部委託、事業の効率化と見直し、水道施設の統廃合、遊休資産の積極的な処分など、より徹底した経営の合理化を図られるとともに、新たな水需要確保のため、新東名高速道路秦野サービスエリア（仮称）スマートインターチェンジの平成32年度開通に合わせた本市の企業誘致活動への積極的な関与が求められるところです。

また、平成28年4月には、下水道部との組織統合が予定されていますが、現状では、水を使用することにより生じる負担について、上下水道の組織が異なることもあり、利用者にとって分かりづらいものになっていると感じられます。このため、料金負担等については、上下水道が一体となり、市民等の利用者に対して説明責任を果たしていくとともに、今後とも引き続き、市民生活や企業活動を支えるライフラインとしての重要な責務を果たすべく鋭意努力されることを要望します。